

新規プロジェクトが決まるまで

今回の新プロジェクトの公募にあたっては、2013年9月・10月に新規プロジェクトを募集し、11月から2014年1月にかけて選考しました。

活動内容がエコカード基金のテーマである「国内外の環境修復と保全」および「次世代の育成」に合致し、エコカード会員向けエコツアーが企画できることも選考ポイントとしました。さらに基金事務局による審査と評議員へのヒアリングを経て、3プロジェクトを決定しました。



2014年度コスモ石油エコカード基金の新規プロジェクトは、厳正なる審査の結果、3プロジェクトが選ばれました。どのプロジェクトも、温暖化防止や生物多様性の保全といった環境問題への対処はさることながら、活動を通して、人づくり、次世代への教育といった側面が、大いに期待されるプロジェクトです。

コスモ石油エコカード基金 評議員 多田 博之
(環境NGO：ジャパン・フォー・サステナビリティ理事長)



1つめのプロジェクト

人と森をつなぐ

パートナー：
一般財団法人 C.W. ニコル・アフアの森財団

C.W.ニコル氏が始めた「アフアの森」は、生きものに森づくりの評価をしてもらうという「自然との対話」によって管理されています。命の環で結ばれている豊かな森は、心も体もその人本来の自分を取り戻せる力を持っていると考え、特に児童養護施設や障害のある子どもなど、自然とふれあう機会が限られる子どもの心を育む自然体験活動を行います。また、東日本大震災復興プロジェクトとして被災地での森づくり、森の学校づくりを進めます。

2014年度に取り組むこと

- ①盲学校や養護学校の子どもたちをアフアの森に招待し、体験学習を行う
- ②東松島の子どもたちを対象に、地域の自然のすばらしさを理解してもらうプログラムを行う
- ③野外活動の指導者をめざす人向けの講習会を行う
- ④エコカード会員向けエコツアーをアフアの森で行う

自然の中の遊びは、仲間と会話をし、協力をするというコミュニケーションの上に成り立っています。そして、五感を使うことで豊かな感性と想像力、元気な心を育むことができます。最初は簡単な事でも構わない。とにかく自然を“経験”してほしい。



理事長
C.W. ニコル氏

新規プロジェクトの紹介

2つめのプロジェクト

アカマツの森 里山再生

パートナー：
NPO法人 森のライフスタイル研究所

長野県伊那市周辺の松くい虫の被害を受けているアカマツの森を、生物多様性の調査をしながら、ボランティアをはじめとした皆さまの手で里山に回復させます。

2014年度に取り組むこと

- ①森林ボランティアをはじめとした皆さまによるアカマツ林4ヘクタールの整備(3年間で14ヘクタール目標)
- ②生物多様性の調査
- ③次世代を担う地域の小学生のための森林体験教室
- ④地域住民が自発的にアカマツ林の保護ができるようになるための森林整備学習会

私たちは、普通の人たちが当たり前のように里山に関心を持てる社会をつくることをめざすNPOです。このプロジェクトの目的は、アカマツ林に人の手を入れて昔の元気だった山に戻すこと。そして、アカマツ林ならではの、生物多様性の保全を行うこと。長野県伊那地域から始める活動を3年後には全国へと広げていきます。



代表理事所長
竹垣 英信氏

3つめのプロジェクト

Meets Green 南三陸

パートナー：
NPO法人 キッズドア

東日本大震災から自然環境との共生を軸とした復興に取り組む宮城県南三陸町で、中高生に地元企業の取り組みを学ぶ機会を提供し、将来の復興を担う人材を育成します。南三陸町で行っている復興の取り組みを地元と仙台市の中高生がフィールドワークなどで学び、インターネットを活用し、社会に向けて発信します。南三陸町の情報を継続的に発信することで、持続可能な地域の復興と環境保全をめざします。

2014年度に取り組むこと

- ①南三陸町の自然環境との共生を中高生が学ぶフィールドワーク合宿を実施
- ②フィールドワークで学んだことをレポートにし、地域など身近なところから発信をはじめ
- ③プロジェクトの発信ツールの運営開始(ホームページなど)

アジア地域から注目されている技術を使った環境にやさしい資源循環型のプロジェクトが南三陸町ではじまっています。復興の先に、どんな変化が生まれるのか、「体験」しながら継続的に関わることができるスタディツアーを行います。よりよい環境づくりを一緒に考えていきましょう！



事務局長 兼 東北本部長
片貝 英行氏